| | | |
|---|---|---|
| ○ | 一 | （十）一三五度 |
| 一 | ○ | （一）四五度 |
| ○ | ○ | （一）一三五度 |

(2) 送信信号は、次のとおりであること。

ア 構成は、別図第六号のとおりであること。

イ 前置符号は、搬送波再生符号及びクロック再生符号から構成されること。

ウ 搬送波再生符号は、Ｉチャネル及びＱチャネルともに四八ビットで構成され、各ビットとも「○」であり、いずれもスクランブル及び誤り訂正符号化はされないこと。

エ クロック再生符号は、Ｉチャネル及びＱチャネルともに三二ビットで構成され、Ｉチャネルは各ビットとも「○」であり、Ｑチャネルは、「一○」が一六回繰り返され、いずれもスクランブル及び誤り訂正符号化はされないこと。

オ サブフレーム同期符号は、Ｉチャネル及びＱチャネルともに、最初のサブフレームは、一二ビットで構成され、「○一一一　一○○○　一○○一」であり、2、3及び4番目のサブフレームは、一二ビットで構成され、「一○○○　○一一一　○一一○」であり、いずれもスクランブル及び誤り訂正符号化はされないこと。

(3) スクランブルは、系列$2^{15}-1$の擬似乱数系列（以下「ＰＮ系列」という。）との排他的論理和をとること。

(4) 誤り訂正符号は、符号化率四分の三、拘束長七のパンクチャド畳み込み符号（畳み込み符号に対して規則的に適切な冗長ビットを間引くことにより符号化率を柔軟に変化させた符号をいう。以下同じ。）とし、そのもとになる符号化率二分の一の畳み込み符号の生成多項式は、次のとおりとする。

$$G_1(X) = 1 + X^2 + X^3 + X^5 + X^6$$

$$G_2(X) = 1 + X + X^2 + X^3 + X^6$$

(四) 無線電話による通信を行う場合は、次の条件に適合すること。

(1) (三)の(1)、(3)及び(4)の条件に適合するものであること。

(2) 送信信号は、次のとおりであること。

ア 構成は、別図第七号のとおりであること。

イ (三)の(2)のイからオまでの条件に適合するものであること。

(3) 音声符号化は、毎秒六、四〇〇ビットのＩＭＢＥ方式（国際移動通信衛星機構が監督する法人が定めるＩＭＢＥ音声符号化方式をいう。以下同じ。）であること。

(五) 呼出し及び応答信号は、次の条件に適合すること。

(1) 変調方式は、二相位相変調方式であること。

(2) 信号は、次のとおりであること。

ア 構成は、別図第八号のとおりであること。

イ 前置符号は、搬送波再生符号及びフレーム同期符号から構成されること。

ウ 搬送波再生符号は、Ｉチャネル及びＱチャネルともに一〇ビットで構成され、各ビットとも「○」であり、いずれもスクランブル及び誤り訂正符号化はされないこと。

エ フレーム同期符号は、「一〇一〇　一一一〇　一〇〇〇　一一一一　〇一〇〇」であり、スクランブル及び誤り訂正符号化はされないこと。